令和５年度倉吉市男女共同参画推進市民会議　会議録

日時：令和５年 10 月 31 日（火）
午後３時 30 分～４時 40 分
会場：倉吉市役所第２庁舎 会議室 303

日程
１　開会
２　部長あいさつ
３　委員紹介
４　会長・副会長選出
５　報告事項
（１）第６次くらよし男女共同参画プランの令和４年度進捗状況について
６　その他
７　閉会
＊＊
日程１～３省略
４　会長・副会長選出
会長　岩間隆二委員、副会長　河本勢津子委員に決定
５　報告事項
（１）第６次くらよし男女共同参画プランの令和４年度進捗状況について
・資料１「第６次くらよし男女共同参画プラン施策体系等」に基づき第６次くらよし男女共同参画プランの概要について説明。
・資料３「第６次くらよし男女共同参画プラン施策体系に基づく評価表（令和４年度）」に基づき、各基本目標ごとにその現状水準と背景、今後の方向性について報告をした。

【報告事項への意見等】　※○は委員発言、青字は事務局発言
■基本目標１男女がともに活躍できる環境づくりについて
○農業経営における家族経営協定は令和４年度何件か、また目標値は何件か。
⇒累計で 48 件、目標値は 53 件。資料３の右側から３～７列目に評価指標項目と基準値、目標値、実績値を表記している。
○重点目標（２）働く場における男女共同参画の実現の今後の方向性の４行目について、「子育てと仕事が両立しやすい環境である」と感じる保護者の割合が 38.5％で、前年と比較し 11 ポイント減少とある。この 11 ポイントはけっこう大きいと思うがこれについて何か分析されたものはあるか
⇒男女共同参画白書(内閣府)の引用になるが、コロナ禍においてステイホームが指示され、学校休校に対応するため母親が仕事を休む傾向が高かった。このようなことも踏まえ、育児に関する負担が女性に偏った状況があり、このような結果が出たのではないかと考える。
○前年度というのは何年度か。
⇒令和３年度。

○令和３年度はコロナ禍に既に入っている。ステイホームは令和２年の初期の頃のことなので、女性が負担に感じたのはむしろ初期の令和２年なのではないか。そうすると今の事務局の分析は誤っているのではないか。※

※本市民意識調査は、令和３年５月実施。、年度初めに調査をすることでその前年（令和２年度）の施策に対する市民の意識をみるものであることから、コロナ禍による全国的な傾向が倉吉市にも当てはまると言える。

○今言われた 11 ポイント減少が、コロナ禍の影響ということであれば、コロナが収まれば回復が期待できるということになるか

⇒期待したいが、現状に慣れてしまい啓発をしていかないと上がっていかないのではないかと考える。

○半数は両立しやすい環境であるということだが、約半数はコロナが関係なくても両立しにくいと思っている人がいるということ。この数値は、全国的にはどうか。倉吉の数字と比べて高いか低いかわかる調査はあるか。

⇒全国的な数値は持っていない。担当課に確認したいが、同調査結果について過去３年間を見ると、令和４年度 38.5%、令和３年度が 49.5%、令和２年度が 44.1%とコロナが原因ではないということが見受けられる。分析の不足であるので改めて分析してみたい。（課長）

⇒この設問は子育て支援の指標として調査している。ここで使うのが妥当かどうかもあるが、コロナ禍前までは 50%近くあった。その背景には、子育てする上での経済的余裕がないという要因もあり、家庭と仕事の負担感というのもあるだろうが、おそらくコロナで働けないという経済的な面も一つの要因になっていることもあり、総合的に両立しにくいという方向に転じたのではないかと福祉関係部門とは分析している。（部長）

■基本目標２　安心・安全に暮らせる社会づくりについて

質疑なし

■基本目標３　男女共同参画社会の実現に向けた基盤づくりについて

○意識は高いが、実態は悪くなっている。コロナ禍の影響が如実に表れているということか。

⇒その通り。令和２年度以降、男女の機会均等が図られているとか、子育て、家事が平等にできているという気持ちの割合が下がってきている。これは明らかにコロナ禍による影響も大きいと考えている。

○「重点目標（３）家庭における男女共同参画の実現」の現状水準と背景で、３行目に家事、子育て、介護等を分担していると思う人のうち、男性は 60%、女性は 48.2%と男女で意識の差があるが、男性はやっていると思っているけれども女性はそうは思っていないということか。

⇒そう言える。

○男性が努力されているということがわかる数字だと思う。

○家事・育児について、男性の感覚が「手伝う」という意識が多いと感じる。「一緒に」、「共同でやる」という意識にならないといけない。この数字は、それを気づきつつあるという状況ではないか。

○年齢階層別などでの違いはないか。

⇒年代別ではあまり差がない。すべての年代でだいたい 50%。

○何年か前に男女共同参画を推進するために、各地区を回ったことがあった。当時は男女共同参画の推進啓発をしても男性の反発があったり格差があった。その当時のことを考えると、今は大きく変わったと感じる。ただし、意識では理解しているのでアンケートは良い回答をするが、実際の生活の中ではまだまだ行き届いていないと感じる。

⇒啓発の成果として目に見えるものがないが、振り返った時にずいぶん昔と変わったと感じることがある。地道に取り組んでいきたい。

○工事現場で女性２人が測量されているのを見かけた。がんばってほしいと感じる。このような人（技術職）はどれくらいおられるか。

○この３、４年の間に女性が急に増え、現場にも積極的に出ている。重い物を持つとか、山を歩く等あるが、機械化や、ＩＣＴやパソコンを使って男女関係なく少しずつ働きやすくなっている。ただ、働きやすくなったとはいえ、女性の声が伝わりにくいところもあるので、意見交換の場等いろいろなところで女性の意見を伝えている。

どの業界も女性が男性と対等に働きたいと思う人が増えているが、やはり出産・子育て・介護がネックになって同じ仕事を続けられるのか、という課題は意見交換の場でいつも出る。産休・育休後に職場復帰し、同じ仕事でなくてもできる体制、女性がずっと働き続けられる体制を整えておかなければならないと思っている。

○なかなかこのようなことを聞く機会がなかったのでいいお話が聞けた。

6　その他

・今後の令和５年度の今後の主催事業について

男性の育児休業をテーマとしたワーク・ライフ・バランス講座、性的マイノリティ啓発講演会、くらよし男女共同参画推進スタッフによる町内学習会での啓発について説明。

【意見】

○男性・女性の意識に差があるという話があったが、介護における男性の参加はどれくらいあるか。若い世代が育児に関わっているのはよく見る。介護については女性達がしている姿は見るが、男性がしている姿はあまり見ない。介護をしている世代の苦労話をよく聞くので、これから介護する世代、中年からその上の世代が介護について勉強する機会があったほうがよいと思う。

○義理の親の介護を夫に関わらせたが、親が亡くなった後、関わって良かったと言っていた。このことからも介護は男女関係なくできるようにした方がよい。

⇒検討していきたい。

7　閉会

○ジェンダーギャップ指数を見ると日本の男女格差は世界で 146 か国中 125 位。

小さな格差が身近にもたくさんある。これに気づきながら啓発活動を続けていってよりよい社会を築いていくというのが倉吉のめざすところと思う。